

図9は、把握した利用者ニーズを博物館運営に反映させているか否かを尋ねた結果です。このように、ほとんどの博物館が「部分的に反映させている」と回答しています(39館)。博物館運営へ反映させることは必要と考えているが、すべてを反映させるのではなく、反映させることができる内容に絞って反映させているようです。

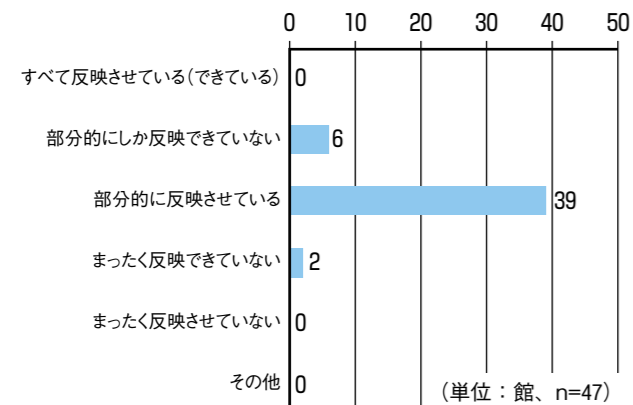


図9 把握した利用者ニーズの博物館運営への反映状況

(3) 多摩・島しょ地域博物館のボランティア

ここからは、利用者よりも博物館運営側に近い博物館のボランティアについて、その導入の有無、ボランティアからの博物館運営に関する意見の把握状況及び運営への反映状況について見ていきます。

① ボランティアの導入

まずは、ボランティア制度について考えてみます。本稿では、ボランティアとは、有償・無償に関わらず、市民等の奉仕活動であると博物館側が認識しているものを指すこととします。ゆえに、実際にその内容で活動している人々の具体的な名称は問題とはしません。

日本の博物館界において、ボランティア制度の導入が話題になりだしてから、早や10年以上が経ちました。その間、国や公益財団法人日本博物館協会⁹をはじめとする博物館関係団体が主催する多くのシンポジウムなどで、種々の博物館からの事例報告を通して、博物館へのボランティアの導入が全国的に広がりました。

そこで、多摩・島しょ地域の博物館におけるボランティア導入の現状について見てみます(図10)。

ボランティアの登録制度を有し、ボランティアが自主的に活動している博物館は16館で、全体の約4分の1でした。ボランティアの趣旨を考えるならば、自立して活動が行えるこのタイプのボランティア活動が最も望ましいと考えられます。次に、ボランティアの登録制度は有しているが、ボランティアの自主的な活動はあまり行われていないという博物館は10館でした。これは、博物館の指示した事項を中心に活動しているということを意味しています。また、ボランティアの登録制度は有していないが、博物館が必要な時にその都度募集しているという博物館が4館ありました。これは、制度に縛られずその時々で柔軟な対応が行えるというメリットがあると考えられます。そして、ボランティアを導入していない博物館も約4割(26館)ありました。

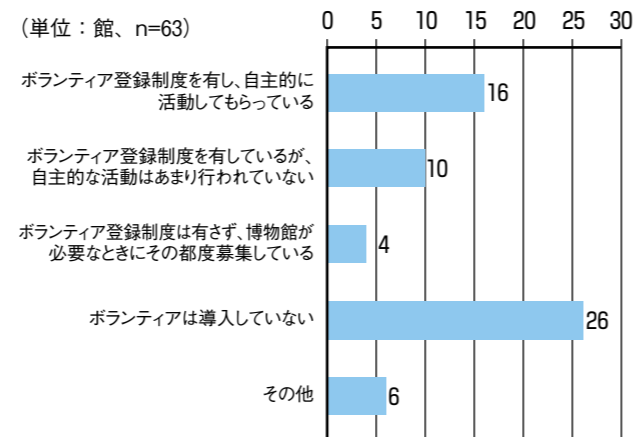


図10 ボランティアの導入

② ボランティアからの博物館運営に関する意見の把握・博物館運営への反映

①で、ボランティアの導入を行っていると回答した博物館に、ボランティアから博物館運営に関する意見を集めたり、その意見を博物館運営に反映させたりしているかを尋ねました。図11(次ページ参照)のように、ボランティアから「意見の把握を行い、博物館運営へ反映させている(できている)」博物館が6割以上(19館)と最も多い結果となりました。このことから、ボランティアを導入している博物館において、その多くはボランティアからの情報を得ながらそれを博物館運営に活かしているのだと分かりました。

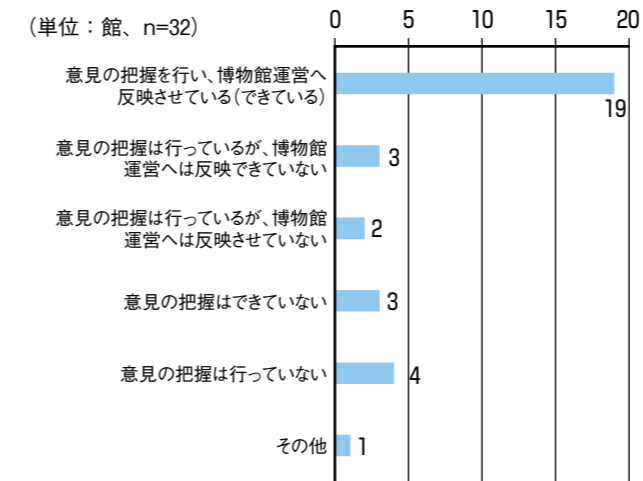


図11 ボランティアからの博物館運営に関する意見の把握・博物館運営への反映¹⁰

(4) 博物館に求められる役割

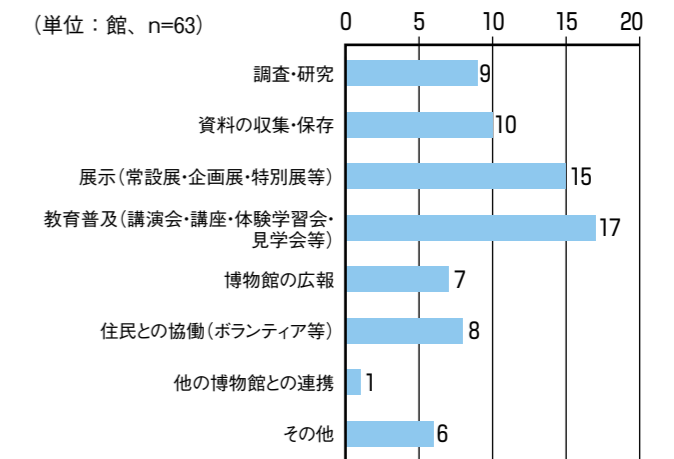
これまで、多摩・島しょ地域の博物館の運営の実態、博物館の利用者ニーズの把握、ボランティアについて見てきました。本章の最後に博物館に求められる最も大切な役割とは何かについて考えてみたいと思います。

今後、自身の博物館に求められる最も大切な役割について尋ねたところ、図12のような結果を得ました。

最も多い回答が講演会や講座、体験学習会、見学会などの「教育普及」で17館が回答しています。次いで、常設展や企画展・特別展などの「展示」を15館が回答しています。そして、「資料の収集・保存」(10館)と続きます。このように、対利用者へのサービスに重きが置かれていて、そのサービスを提供するための根幹となる資料収集・保存や調査・研究などがそのあとに続きます。しかし、ボランティアなどを含む「住民との協働」については、5番目(8館)に位置している状況です。住民との協働はまだまだ上位に位置するには至っていないことが分かりました。これは、住民との協働よりも、個別具体の博物館活動そのものが求められている役割だと考えている博物館が多いことを示しています。また、「その他」(6館)の中には、すべてが関連しているので分けて考えるのは難しいといった趣旨の意見もいくつかありました。

いずれにしても、利用者へのサービスであったり、資料の収集・保存やその調査・研究であったりといった、以前から言われている博物館の

根幹にかかわる分野が最も大切な分野であると現在も考えられているようです。



※複数回答した博物館があるため合計が63にならない。

図12 博物館に求められる最も大切な役割

3. 多摩・島しょ地域博物館の利用者の現状

前章では多摩・島しょ地域自治体が設置した博物館に対して自治体としての意見を聞きました。本章では、博物館の利用者の意見を集約します。

多摩・島しょ地域の自治体が設置した博物館の中から1館を選定し、その博物館を実際に利用している来館者に対してアンケート調査¹¹を実施しました(以降、「利用者アンケート」という)。また、その博物館を設置した自治体の住民に対して当該博物館に関するアンケート調査¹²を実施しました(以降、「住民アンケート」という)。

博物館の抽出にあたっては、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課が発行している「平成24年度 区市町村生涯学習・社会教育行政データブック」を参考としました。そして、同データブックに記載されている、博物館関連施設を最も多く設置している自治体(調布市)を選定し、同市が設置・運営している調布市郷土博物館において利用者アンケートを実施しました。併せて、同市において住民アンケートも実施しました。

なお、この抽出法で対象博物館を選定したことにより、アンケートの結果は博物館行政に比較的力量を入れている自治体における結果であるという偏向がかかっている可能性があることを申し添えます。